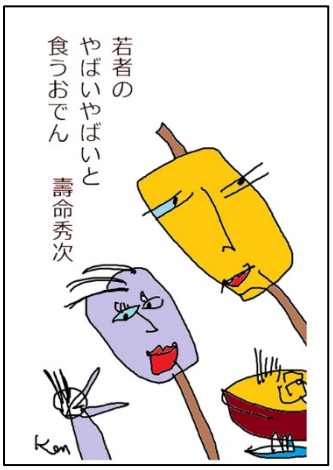
■今月の特選句

2019 年 2 月

宇宙より天国近し初湯浴び

柳　紅生

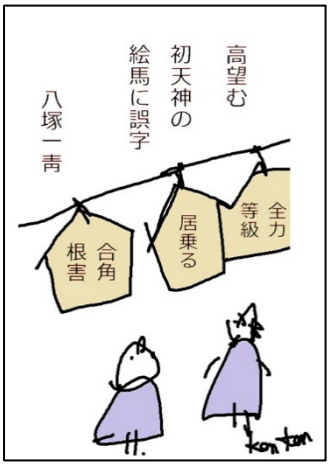
いい湯だなハハン～♪　こりゃあ極楽じゃ。極楽は天国にあるなあ。こんな身近に天国があるとは有り難い。天国より宇宙の方が遠いことを発見。



若者のやばいやばいと食うおでん

壽命秀次

若者の使う「やばい」は、「素晴らしい」とか「美味しい」などの肯定的な意味。新語にゃついていけんと言う人は、本来の意味の「やばい」ですぞ。



高望む初天神の絵馬に誤字

八塚一青

これは、ちと恥ずかしい。この国語力で、この大学の合格祈願と言われてもなあ。頼まれる神様も、これでは応援する気が失せるというもの。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

安堵にも疲れのまじる大晦日

井口夏子

分かる分かる。疲れるほど頑張ったということよ。若い時と違って、無理をすると疲れという副産物がついてくる。そろりそろり脳天気で行こう。

へそくりの見つからぬまま掃納

久松久子

もしかしたら、隠し忘れたままのヘソクリが出てくるかも。期待を胸に年末の掃除をしてみたが、結局発見できず。なんだかどっと疲れが出るね。

新鮮を競う初日とビアの泡

花岡直樹

ビールの泡ごときと比べられては初日も不機嫌になるだろうね。しかし、直樹君にとって大切なのはまずビール。正直がよろしいね。 発想も新鮮。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

一族の下足の揃うお正月　青木輝子
・・・靴を数えて年玉用意

首の長さ徳利セーターに測らせる　田中晴美
・・・そのアバウトな長さがええなあ

ものの見事に断捨離の冬木立　廣田弘子
・・・冬の木立は自然にできた

日常のことが気がかり三ケ日　林　桂子
・・・松が明ければ句会が気になる

マスクしてやっと十人並の貌　小川飩太
・・・マスクの顔を褒めたらいかん

咳きてわが悪口を止めにけり　小林英昭
・・・地獄耳にはこれが有効

司会者に食べる余裕のなき師走　赤瀬川至安
・・・折詰にしてくれとも言えず

巻頭は歳暮の高価なる人に　伊藤浩睦
・・・そんな結社はお金がかかる

父のような父にはならぬ煤払い　久我正明
・・・父のようには「なれぬ」がホント

残り物には福があるとか福袋　山下正純
・・・売れ残りとは言い難いから

たちまち主役手土産の冬蜜柑　山本　賜
・・・脇役となる苺大福

新玉の句句句と笑ふ五七五　吉川正紀子
・・・ひとり遊びにや俳句が一番

時の円周率去年今年去年今年　稲葉純子
・・・貫く棒の見つからぬまま

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

正月の番小屋猫のたむろせる	相原共良
生みたてのたまごぬくぬく今朝の春	相原共良
墓地目指す年の瀬の渋滞に	相原共良
太陽でダイエットする雪達磨	青木輝子
やじ馬にそっぽ向いてる福達磨	青木輝子
紅葉散るボーつと生きてんじやねーよ！	赤瀬川至安
留守居しておじやはシロと同じ鍋	赤瀬川至安
マスクして眼と眼で愛を語りあふ	荒井良明
北風の尻尾東北新幹線	荒井良明
毎年よ元日の空青いのは	荒井良明
救急車行き交ふ音も十二月	井口夏子
野良猫に戻つたらしく冬ざるる	井口夏子
何処もかも真つ昼間のごと聖夜哉	池田亮二
落葉掃くはずれ宝くじもろ共に	池田亮二
クリスマス妙に良い子の孫がいて	石塚柚彩
子等アニメじじばばクイーン初映画	石塚柚彩
スキー帰り直前渡る大猪	石塚柚彩
搾りたてガマの油の初鏡	泉　宗鶴
馬油（マー油）塗りマラソン人の初走り	泉　宗鶴
宝くじ当りは夢か初詣	泉　宗鶴
何もかも平成最後なる今年	伊藤浩睦
福袋三日並んで何を買ふ	伊藤浩睦
初春や恵方に向いて三千里	伊藤洋二
宝船水平リーベ僕の船	伊藤洋二
百八の煩悩砕く初ゴルフ	伊藤洋二
冬将軍偉くもなくて髭生やし	稲沢進一
まず売れて訳ありりんご店頭に	稲沢進一
年忘れ諾か否かと問はれても	稲沢進一
河豚鍋を前に夫婦の譲り合ひ	稲葉純子
早ひび割れて吾の顔と鏡餅	稲葉純子
雪女ドライブしようコンビニへ	井野ひろみ
初詣賽銭箱に辿り着く	井野ひろみ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

初詣鳩の居場所の無かりけり	井野ひろみ
後ろ髪ひかれる思い枯れすすき	上山美穂
手作りのおせちはアート高値なる	上山美穂
小吉を愚痴られてゐる初みくじ	上山美穂
静止画にすれば良かつた初夢は	梅岡菊子
寒の水に優柔不断を叱られる	梅岡菊子
ポキポキと音立てて折る軒つらら	梅岡菊子
水仙の香の満つ部屋の朝祝い	梅野光子
冬夕焼異国の木々を染め上げる	梅野光子
年の瀬の母に幼子読み聞かせ	梅野光子
姉妹牡蠣殻を積み会話積み	太田史彩
バスツアー修学旅行めきて冬	太田史彩
囲炉裏火や祖母のキセルのこんと鳴る	太田史彩
振袖に歩調を合はせ初詣	小笠原満喜恵
達筆がパソコンとなり年賀状	小笠原満喜恵
初日の出平成の御世惜しみつつ	小笠原満喜恵
腹時計に起こされてゐる寝正月	岡田廣江
明日朝は初日となるや夕日落つ	岡田廣江
淑気かな鴉の羽の漆黒に	岡田廣江
本家は上州元祖は総州空っ風	小川飩太
走る師をぴったりマークの貧乏神	小川飩太
天窓をよぎるは流星だつたかも	加藤澄子
一番に母の椿が咲きにけり	加藤澄子
去年今年〝ゴーン〟ウイズ　ザ　ウインドウ	加藤澄子
コッケイはケッコウと鳴く初鶏よ	金城正則
初鶏のコッケイサイコーと聞こゆ	金城正則
お歳暮の一品もなき我が仏壇	金城正則
煩悩を払う猫の尾冬ぬくし	久我正明
蓑虫は時々立って世を拗ねる	久我正明
駆け足の平成昭和にらみ鯛	工藤泰子
三方の目立ちすぎたる鏡餅	工藤泰子
続編の入口出口去年今年	工藤泰子
寒卵割ってこの世が始まりぬ	桑田愛子
クレーンは恐竜のごと冬銀河	桑田愛子
押しくらまんじゅう私は独り押さで立つ	桑田愛子
日記買ふ書架の肥やしと知りながら	小林英昭
氷柱入れオンザロックと洒落のめす	小林英昭
手作りの干柿三方に鎮座して	近藤須美子
千両に松をあしらひお玄関	近藤須美子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

はずませるおせち料理を囲む声	近藤須美子
幾たびか奇禍に遭ふ首マフラー巻く	下嶋四万歩
催眠の術から覚めぬ炬燵かな	下嶋四万歩
温まる炬燵の脚と人の脚	下嶋四万歩
尻を焼く焚火を囲む艶話	壽命秀次
黄身の色濃きを期待や寒卵	壽命秀次
だんまりを決め込む奉行河豚の鍋	白井道義
オレオレの息子を名乗る風邪の声	白井道義
マスクした医者にマスクを取る患者	白井道義
北風の背中追い越すリニアかな	水夢
クロワッサン割く指先に冬匂ふ	水夢
大量の薬受け取る小晦日	鈴鹿洋子
百八をとうに超しをり除夜の鐘	鈴鹿洋子
生きて集まれば老後のこと	鈴木和枝
暖房消す終活と言う字が浮上する	鈴木和枝
錆びた鎌まだ稲刈るかもしれぬいつもの棚	鈴木和枝
日脚伸ぶ今日の日時計遅れぎみ	髙田敏男
頭には毛生え薬やはつもうで	髙田敏男
初詣願いは内緒東慶寺	髙田敏男
人日や視線のあふは人相見	田中　勇
冬帝の狙ってをりしものは何	田中　勇
老いの身の風邪引きやすきを嘆きけり	田中　勇
眼の大きい美人台風大荒れに	田中早苗
柚子たつぷり泳がせ呻る浪花節	田中早苗
ドレミファソ曽孫と数へる吊るし柿	田中早苗
蝋梅の香りは私の元気剤	田中晴美
食べれます巻かれぬレタスの独り言	田中晴美
着ぶくれの又の名粗大塵芥夫(ごみお)です	田村米生
死ぬ死ぬと言ってこっそり寒卵	田村米生
あこがれはケーキの上よ冬苺	田村米生
餅肌に憧れ餅を食べ過ぎる	月城花風
お年玉無口な甥のありがとう	月城花風
声透る夜回りだつたねおかあさん	月城花風
ジャンボくじ当たり銭湯で逆立ち	土屋泰山
裸木にあられ当たってハックション	土屋泰山
二次会で忘年会の憂さ晴らし	土屋泰山
ティッシュまで洗ってしまふ日短	土屋虹魚
干しものの下に父あり女正月	土屋虹魚

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

なまはげと見間違ひたる寝起きかな	土屋虹魚
作れない親に食わない子の御節	飛田正勝
もう元は取れない齢年忘れ	飛田正勝
気が付けば徘徊となる初詣	飛田正勝
代議士の口に据えたき寒やいと	西をさむ
禅寺に身じろぎもせず寒の鯉	西をさむ
鳴けば鳴くだけ悲し寒鴉	西をさむ
初場所は負けたら悲鳴よ稀勢の里	花岡直樹
新元号知らねど平成最後のお正月	花岡直樹
年賀状に携帯メール会えるかも	林　桂子
お節食す勤勉問わず縁担ぎ	林　桂子
三分のあはひ何せむみそかそば	原田　曄
穴惑どれがわが家か忘れたる	原田　曄
わが気力奪ひとりたる暖房車	原田　曄
春小袖前に回れば西洋人	久松久子
初夢のつづきを惜しみ二度寝かな	久松久子
買初はネットの街のZOZO TOWN	日根野聖子
松過ぎの厨に戻るバターの香	日根野聖子
中くらいの幸を賜り初御籤	日根野聖子
眺められ挙句に啜られ熟柿	廣田弘子
落ちる柿とび立つ鳥と跳ねる犬	廣田弘子
生きて良し逝ってまた良し寝正月	細川岩男
誰彼の干渉の無き去年今年	細川岩男
正月や寝ても覚めても持て余す	細川岩男
二ん月の四国三郎激やせの	堀川明子
絶食のあとは断食隙間風	堀川明子
健診の結果と寒波届きけり	堀川明子
軸の物替へてご破算年用意	本門明男
明日からはねずみに戻る嫁が君	本門明男
平穏に過ぎたる明り障子かな	本門明男
百本の髪の散髪年新た	南とんぼ
日本ダービー夫婦で卓を叩きおり	南とんぼ
初詣三億当てたいお賽銭	南とんぼ
ポインセチアに感染されど待ち惚け	椋本望生
仏前で無くて良かつた大嘘	椋本望生
ぐつぐつおでんぶつぶつ息子不発弾	椋本望生
数へ日や長い話はお断り	村松道夫

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

南瓜煮る一日遅れの冬至かな	村松道夫
冬の句をあかぎれの手で推敲す	村松道夫
初神楽泣く子をそつと獅子の噛む	百千草
数へ日や何かといへば人の列	百千草
可動域の狭さ知るなり初体操	百千草
猪を捉へる絵馬に天晴れを	森岡香代子
パン焼き器今宵は餅をついてをり	森岡香代子
肌荒れをめでたいと言ふ鏡割り	森岡香代子
まばたきを我慢させられ初写真	八木　健
受験子を抱える家の小声かな	八木　健
しばらくは悴みし手を脇ばさむ	八木　健
積善の家に余慶の御慶かな	八洲忙閑
酒は好き女は苦手おらが春	八洲忙閑
信濃では千曲越後で信濃川柳	八洲忙閑
世知辛さ少し薄めて慈善鍋	八塚一青
お代わりはしないでおこう七日粥	八塚一青
胃と腸の回路を描き除雪せり	柳　紅生
シャガールの空の披かれ梯子乗り	柳　紅生
初春の発句も生まれぬ脳疲労	柳澤京子
届きしは娘の手造り節料理	柳澤京子
雑煮餅高齢施設は団子なり	柳澤京子
混雑に出かけたがるは初詣	柳村光寛
旧姓に戻しましたの年賀状	柳村光寛
止り木に飲むともなしに飲む寒夜	柳村光寛
幾久しく届けば賀状書くご縁	山下正純
電球の傘に集へり冬の蠅	山下正純
一週間使ひそびれたかぶらの葉	山本　賜
こんなんでいいの湯豆腐二人なら	山本　賜
折り目つけ楷書で埋める初日記	横山洋子
春の軸年に一度の晴れ舞台	横山洋子
ひよどりもビタミン不足か菜っ葉食む	横山洋子
年越しの蕎麦にご時世カップ麺	吉川正紀子
常連に眼をつけられし吊るし柿	吉川正紀子
寒に耐へやがて熨斗巻く凍豆腐	吉原瑞雲
味気なきお一人さまのおでん鍋	吉原瑞雲
初鞴りや小型でもよしマグロなら	吉原瑞雲
玄関に新調のブーツ明日は晴れ	渡部美香
茶を淹れることもせぬ父蜜柑食ふ	渡部美香
寒の水くぐれば藍の色となる	渡部美香

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。